

第1章『M&Aを前向きに検討したいがリスクが怖い』～引継ぎセンターなどのセカンドオピニオンの活用を！～

大阪府事業承継・引継ぎ支援センター
統括責任者 兼田 亜貴



「会社は再来月には、綺麗になくなりますよ」社歴を感じさせる工場で、顧問の会計の先生が手際よく会社を閉じる作業を続けます。高い技術力を持ち業況良い会社でしたが、社長の急逝と遺族の意向で廃業へ。惜しまれる声もありましたが遺族の『リスクや責任は取りたくない』という強い希望で、M&Aの選択肢はなかったとの事。

後継者不在企業が、廃業を回避するために第三者への会社の譲渡（M&A）を検討されるケースが増えてきました。大阪商工会議所の5階にあります大阪府事業承継・引継ぎ支援センターではM&Aのお手伝いをしています。その成約数は、令和5年度には過去最高の100件超となりました。譲渡・譲受ともにM&Aの裾野の広がりを体感する毎日ですが、「リスクが怖い。後悔したくないので失敗例を教えてください」という声も頻繁に耳にします。

実際「こんなことならM&Aするんじゃないかった」と後悔されるケースもあります。最近、買い手企業が悪質だったことが判明した事件が最近報道され、物議をかもしました。その手口は会社を譲受した後、本来なら解除されるべき先代社長の連帯保証を解除せず放置し、その間に会社の経営状況を恣意的に悪化させ、法人・社長個人とのダブル破産に至らしめたというもの。

予防策として、最も勧めたいのが「セカンドオピニオン」を持つという事です。一見信頼できると思われる相手先やM&A仲介会社がいてもなお、リスクの再確認、不安事項の洗い出しと予防策について第三者に意見を求める慎重さが必要です。「M&Aをして良かった」「従業員の雇用が守られた」という喜びの声をさらに増やすべく、当センターは、「誰でも無料で活用できるセカンドオピニオン」としての役割も担っています。連携弁護士等の専門家サポートもあります。是非ご活用ください。

